

STYLING

MONO

18世紀に創業し、産業革命時もこの地を離れることなく、上質のニット製品が生産され続けているジョン・スメドレーの故郷、イングランド・ダービーシャー。山間の美しい景色の中に、いまも創業時の姿が残っている。



VOL.24 JOHN SMEDLEY SINCE 1784~

●ジョン・スメドレー

Photo/Tomoaki Tsuruda (WPP)

John Smedley

Text/Teruhiko Doi (WPP)

カシミアの肌触りと絹の光沢……
超長繊維の、海島綿は、
シーアイランドコットンと呼ばれ、
英王室を始め欧州の上流階級で愛用され
続けてきた歴史を持つ、特別な存在である。
西インド諸島で生産され、カリブ海の
気候で育ったその高品質な綿は、
クイーンオブコットンと呼ばれるほど。
そのシーアイランドコットンで作られた
ニット製品を古くから生産していたのが
『ジョン・スメドレー』である。
1784年イングランド・ダービーシャーで
創業し、2009年には225周年を迎えた
英国の名門ブランドとして名高い。一度着たら、
他のニットはもう二度と着たくなくなるほど
極上の着心地の良さと、多くのファンがいる。
世界最高のニット製品はまさに
7つの海を支配した英国の歴史を
体現するものであり、その成立も含めて
まぎれもなく特別な存在である。



STYLING

MONO

ひとつのブランドのように評される
ジョンスメドレーのシーアイランド・
コットン。同社にはその評価と同等の
ウール製品もある。それが1995年から
採用された「メリノウール」である。
ニュージーランド産の良質な羊毛、
超極細のメリノウールもまた大きな魅力。



イングランドでなければ作れなかったこの品質。ニットウエアのテイストを左右する糸の染めから手仕事による最後の仕上げまで、徹底した品質管理と細部へのこだわりが、長持ちする製品を生み出している。最高級のニット製品に冠される「MADE IN ENGLAND」の文字は、それがまぎれもなく本物であることの証である。

ファインゲージに頑ななまでにこだわる
ジョンスメドレーは、現在でも
24ゲージ、30ゲージという2つの
ファインゲージニットを生産し続けている。
毛足の長い繊維だけを特別に選んで紡がれた
同社のファインゲージニットウエアは、
確かな技術を持つ紡績の熟練工によって
伝統的かつ最先端の科学技術が駆使され
現代に至るまで生産され続けている。
特に他社では真似の出来ない工程から
生み出される30ゲージのニットは
網目の細かな超軽量のニットウエアとして
多くのファンに愛されている。
その着心地の良さをひと言で言い表せば
「触感の芸術」である。
一度着たら、二度と他のニットに目移り
することはないだろう。
その断言するのが決して大げさではない
ほどの着心地なのである。
極端なデザインやマーケティングではなく
肌でその質の良さを知るブランド。
素晴らしいのは、長期間着続けたときの
経年の風合いがまた魅力的なこと。
高級ニットの証ともいえる、完璧で
きれいなつなぎ目を、職人による手作業で
ひと針ごとに編み上げた仕上がりで実現し、
洗濯を繰り返しても型崩れを起こさない。
最高の素材と最高の縫製技術のみが
到達できる極上のニットウエアの価値観、
それがジョンスメドレーの定義なのだ。



流行に左右されることのないオーソドックスな定番スタイル。しかし決して野暮ったいデザインではなく、いつの時代もその時々ファッションにさりげなく溶け込む普遍性。それは、優れたデザインは控えめである、ということを実現するかのようだ。見た目のインパクトよりも、肌に触れたときの感動に価値を見出したい。



STYLING

MONO

ジョン スメドレーの本社工場までダービーの駅からクルマで走ると豊かな自然と何本かの川が目に入る。まるで映画のロケ地に来たような、ビクトリア朝時代に紛れ込んだようなそんな錯覚を覚える風景だ。英国企業の歴史を目の当たりにできる。



そうとう古い時代から使用されている観のある型紙。ジョン スメドレー社の財産である。流行ではなく不変のスタイル、という同社の社風が見えてくる。



英王室では代々、綿製品はシーアイランドコットンを使用するといふしきたりがあった。エリザベス一世がシーアイランドコットンを使い、ネグリジェに使い、それ以降、貴族階級のステイタスになったのだという。大



1930年代のおそらく広告かカタログに使用された写真。左右は1939年当時のニットウェア。ゴルフクラブを持つ女性のスタイルは、いまみても実にエレガントで上品。中央はエリザベス1世の時代から愛用されたナイトウェア。

西洋の向こう側にある小さな英国領の島々で生産された良質の海島綿が、ニットの一貫生産を行っていた同社の主力商品になったのは、ある意味必然だったのかもしれない。シーアイランドコットンの繊維は3〜4cm。2〜3cmがアペレージの他のコットンよりは長い繊維である。これがシルクに次ぐ細さを生み出している。また、繊維の長さは糸に紡いだときの強度も高め、同時に糸そのものの繊維量が多く、より空気が含まれることになり、それが吸湿性や保温性が増す特徴となっている。シルクの光沢とカシミアの肌触りは、こうした特長的な繊維構造によって生み出されているのだ。ジョン スメドレーは、この高品質の糸を網目の細かい30ゲージまで編み上げることができ、三代目ジョンの時代から続くコットン・パターンと呼ばれるフルファッショ



良質の原材料から生み出されるジョン スメドレーのニットウェア。MADE IN ENGLANDのネームは英国企業の矜持であり、高品質の証でもある。

編み機によるパーツの生産と経験値が、現代の製品にも思いつている。こうして生産されたパーツを縫い上げるのは、創業当時もいまも熟練した職人の作業。リンキング仕上げと呼ばれるこの作業では、たとえば襟のリップはひと編みずつ手作業で仕上げられる。その手作業ならではの警沢な仕上がりこそが、ジョン スメドレーの価値である。創業から220年を過ぎてもダービーシャーの美しい自然に囲まれた小さな村で、ジョン スメドレーの美しく心地いいニットウェアは生み出され続けている。その静かで変わらぬスタンスには驚かされるが、9世紀10世紀の石の城がまだ残っているこの国では、200年なんてまだまだゆつたりとした進化の途中なのかもしれない。そんなストーリーもまた英国らしい。



ある程度まで機械で編み上げられたパーツを最終的に製品の形にしていくのは職人の手作業。



撚糸の工程。糸は品質を安定するためにモイスチャーされる。



Perfection of Style and Shape IN BOTH MEN'S AND WOMEN'S GARMENTS.



現在も一部製品のブランド名、あるいは日本国内の代理店名にもなっている Canteen Lea Millsの写真。1927年撮影。

最高級英国綿製品の文化は ジョン スメドレーの歴史。

1492年にコロンブスがバハマ諸島を発見しなければ、シーアイランドコットンの誕生はなかったかもしれない。高品質の綿花栽培に適した気候と土壌、英国人の知恵と現地労働力という奇跡のような組み合わせが、海島綿を生んだ。

「海島綿／シーアイランドコットン」は、この小アンティル諸島という小さな島々でその産声を上げた。この地の気候や土質で育った綿花は、種子に密生した産毛を持たずに越冬することが出来た。陸地で栽培される綿花との最大の違いであるが、その西インド諸島特有の綿花が、最高級のニットを生む原料となったのである。同時に、高度な綿花栽培の技術を持っていたのが英国人であったことも、シーアイランドコットンにとっては僥倖であった。

なぜならば、英国人特有の良質なものを育て上げる気質が、他のコットン製品との大きな差を生み出すことになったからだ。ジョン スメドレーの創業は産業革命の初期である。1784年のことであったイギリス、ダービーシャー州のリーブリッジ村で、ピーター・ナイチンゲールとジョン・スメドレーによる。子ども品質のいい綿を、地道に改良を続けながら育てていったのである。

つて起業された。ピーター・ナイチンゲールはあの、白衣の天使の由来となったナイチンゲールのおじにあたる人物だったという。リーブリッジ村は小川が流れており、動力と工業用水の確保に理想的な土地だった。ここで綿花を紡ぐ工場が開かれ、18世紀の終わり頃には靴下の製造や毛織物などを手がけるようになった。やがてジョン・スメドレーひとり経営が行われ、二代目ジョン・スメドレーである息子に代わって同社は飛躍的な発展を遂げる。紡ぎから編



上品なカラーに染色された糸。シーアイランドコットン。

STYLING

MONO

ジョン スメドレー製品についての
お問い合わせは
リーミルズ エージェンシー
☎03-3473-7007
<http://www.johnsmedley.jp/>



長年にわたって会長職の座を務め、
同社の事業拡大に大きな足跡を
残した四代目ジョン・スメドレーの
ジョン・B・マーズデン・スメドレー。
スイムウェアやナイトウェアへの
取り組みと海外市場への進出を果たした。



上右:ジョン スメドレーといえばこれ。
シーアイランドコットンを使った
抜群の肌触りが気持ちいいボロ「MILO」。
価格 2万7300円。
上左:不変の定番であり
ワードローブの必須アイテムVネック。
柔らかな着心地でカラーバリエーションも
豊富な「ROE」。価格 2万8350円。
写真のカラーはPEA GREEN。
下右:前たてとポケットにアクセントを
おいてデザインされたボロ。
通常のボロとは違い、前たて、
ポケット部にシルクを使用している。
シースナブルなデザイン。
価格 3万450円。
下左:ドレスにもカジュアルにもOKの
前たてが細いカーディガン。
[3455]価格 3万3600円